

第 21 回社会福祉士（専門科目）

国家試験 問題（やまだ塾）

（2009 年 2 月 13 日やまだ塾 HP 掲載）

老人福祉論

問題 81 高齢者福祉の国際動向に関する次の記述のうち、正しいものを一つ選びなさい。

1. スウェーデンでは、1990 年代に、高齢者に対する保健・医療・福祉サービスをコミュニティに一元化する「エーデル改革」を実施した。
2. イギリスでは、1990 年代に、地域の民間事業者が利用者に対してケアマネジメントを行う「コミュニティケア改革」を実施した。
3. ドイツでは、1990 年代に、介護保険制度を導入し、高齢者施設の利用者の自己負担を1割とすることなどにより利用者負担を軽減した。
4. アメリカでは、唯一の公的医療保険としてメディケアがあり、医療の範疇に入らない介護サービスについても、すべて給付の対象としている。
5. 韓国では、ドイツや日本の介護保険を参考に独自の介護保険制度の検討を進め、2008 年 7 月から実施している。

問題 82 地域包括支援センターが行う包括的・継続的マネジメント支援事業に関する次の記述のうち、正しいものを一つ選びなさい。

1. 包括的・継続的ケアマネジメント支援事業は、要介護状態等となるおそれの高い高齢者が、要介護状態等となることを予防するための事業をさす。
2. 老人クラブなどの地域における社会資源の活用までは期待されていないが、医療機関を含めた関係機関と地域の介護支援専門員間の連携支援が求められている。
3. 地域の介護支援専門員の資質向上のため、事例検討会や研修の実施、制度や施策等に関する情報提供等を行う。
4. 介護支援専門員の日常的な業務の円滑な実施を支援する介護支援専門員ネットワーク構築は、専ら、介護支援専門員協議会が担うことになっている。
5. 支援困難事例については、関係機関との連携の下、地域包括支援センター運営協議会に諮り、具体的な支援方針を検討し、指導助言を行う。

問題 83 認知症高齢者の日常生活自立度判定基準に関する次の記述のうち、正しいものを一つ選びなさい。

1. 認知症高齢者に見られる症状や行動の判定は、複数回の検査結果をもとに平均値をとることになっている。
2. 認知症高齢者ケアの方針の作成は、認知症高齢者の日常生活自立度判定基準と障害老人の日常生活自立度(寝たきり度)の判定の双方を必要とする。
3. 何らかの認知症の症状や行動を有するが、一人で在宅生活を行っている人の場合は、日常生活自立度判定基準には該当しない。
4. 夜間を中心として日常生活に支障を来すような症状・行動や意思疎通の困難さが見られ、介護を必要とする場合はⅡbのランクと判断される。
5. 著しい精神症状や周辺症状あるいは重度な身体疾患が見られ、専門医療を必要とする場合はⅢbのランクと判断される。

問題 84 社会福祉協議会による高齢者福祉への取組に関する次の記述のうち、正しいものを一つ選びなさい。

1. 昭和 30 年に今日のデイサービスの原型となるものが長野県上田市社会福祉協議会で実施され、その後老人福祉法の制定によって全国に普及した。
2. 平成 6 年に全国社会福祉協議会が提案した「ふれあい・いきいきサロン」は、認知症高齢者を対象として、地域で楽しく、いきいきと過ごせることを目指して始まった。
3. 市町村社会福祉協議会は運営適正化委員会を設置し、認知症高齢者等のために福祉サービス利用援助事業を実施している。
4. 福岡県春日市社会福祉協議会が、1 日 2 食 365 日の本格的食事サービスを最初に開始したのは、「高齢者保健福祉推進十か年戦略」(平成元年)を契機としている。
5. 「小地域ネットワーク活動」は、日常生活の見守りや支援を必要とする人々を、近隣で連携して支え合う活動である。

問題 85 「高齢者の医療の確保に関する法律」に関する次の記述のうち、正しいものを一つ選びなさい。

1. この法律でいう前期高齢者とは、65 歳以上 75 歳未満の者及び 55 歳から 65 歳未満の者のうち寝たきり者等で市町村が認定した者をいう。
2. 前期高齢者は、医療保険者が被保険者に対して実施する特定健康診査の対象外とされている。
3. 後期高齢者の保険料は、市町村ごとに設定される。
4. 生活保護の受給者は、後期高齢者医療制度の被保険者から除外されている。
5. 後期高齢者医療制度における公費負担は、国、都道府県、市町村において 2:1:1 の割合で負担することとされている。

問題 86 高齢者福祉政策に関する次の記述のうち、正しいものを一つ選びなさい。

1. 老人福祉法は、人口の高齢化率が 7%を超えて我が国が高齢化社会に入った 1960 年代に制定された。
2. 高齢社会対策基本法(平成 7 年制定)に基づき、厚生労働大臣を長とする高齢社会対策会議において、高齢社会対策大綱の案が毎年作成される。
3. 「ゴールドプラン」を改定して作成された「新ゴールドプラン」(平成 6 年)では、「利用者本位・自立支援」の基本理念の一つとして提示された。
4. 「新ゴールドプラン」の後に作成された「ゴールドプラン 21」(平成 11 年)では、介護保険制度実施 10 年後のサービス目標値が設定されている。
5. 平成 17 年の介護保険法の改正により、要支援者に対する予防給付が新たな給付として導入された。

問題 87 介護老人保健施設に関する次の記述のうち、正しいものを一つ選びなさい。

1. 介護老人保健施設は、看護や医学的管理下の介護など医療系のサービスを提供するので、社会福祉法人は開設できない。
2. 介護老人保健施設の開設者は、都道府県知事の承認を受けた医師に、その介護老人保健施設を管理させなければならない、医師以外の者は管理者とはならない。
3. 都道府県知事は、介護老人保健施設開設について、当該地域の市町村の介護保険事業計画に定める入所総定員を超えるときには、許可を与えないことができる。
4. 介護老人保健施設開設の許可は、平成 18 年 4 月施行の改正介護保険法によつて、6 年ごとにその更新を受けなければ、その効力を失うことになった。
5. 介護老人保健施設の広告において、その名称、所在地、電話番号は掲載できるが、そこに勤務する医師、看護師の氏名は、掲載できない。

(老人福祉論・事例問題)

次の事例を読んで、問題 88 から問題 90 までについて答えなさい。

【事 例】

ある県の地方都市に暮らす E 男(73 歳)は、55 歳のときに炭鉱事故で脊椎を損傷し、移動は車いすを使用、食事・排泄・入浴は一部介助である。認知症はなく、意思疎通はできる。要介護 3 の認定を受け、訪問介護(週に 2 日)を利用している。同居家族は妻 F 女(69 歳)のみであるが、F 女は情緒がやや不安定で、アルコール依存もあり、精神科に通院している。E 男と F 女の生活は、E 男の年金で賄われている。

ある日、この地区の民生委員から福祉事務所の老人福祉課に電話があり、「E 男が F 女から虐待されているようだ」と地区で噂がある。私は家に入れてもらえないので福祉事務所で確認してほしい」とのことであった。電話を受けた老人福祉課のケースワーカー(以下、「ワーカー」という。)は、地域包括支援センターの社会福祉士に連絡した(問題 88)。

訪問して E 男と F 女に面接してみると、E 男には F 女の不十分な介護のためと思われる褥瘡

があり、発熱もしていたので入院を勧めた。E 男は入院に関心を示したものの、家庭内の主導権を握っている F 女は頑なに入院を拒み、E 男も「自分は大丈夫。このままでいい」と、自宅にいることを希望した(問題 89)。

しばらくして、ワーカーと社会福祉士が E 男宅を訪問したところ、E 男はベッドから起き上がることができない状態だった。F 女が E 男のことを「臭い。汚い」と繰り返し言うので、E 男は仕方なく一人で入浴しようとしたが、転倒してしまった、とのことであった。褥瘡の悪化以外に、転倒の際にできたと思われるあざが、腕や背中に認められた。ワーカーと社会福祉士は、急遽、関係者を集めたケースカンファレンスを開き、対応を協議することにした(問題 90)。

問題 88 この時点までの、民生委員やワーカー、社会福祉士が「高齢者虐待防止法」の規定に基づいて行う行動に関する次の記述のうち、最も適切なものを一つ選びなさい。

1. ワーカーは、突然の訪問に E 男や F 女が驚いたり、不審に思ったりしないよう、E 男宅の近くの人から連絡があって訪問したことを最初に告げるべきである。
2. ワーカーは、安全確認や状況把握のために、できるだけ速やかに、社会福祉士とともに訪問等を行うべきである。
3. 民生委員は、守秘義務に違反するため、福祉事務所へ通報すべきではなかった。
4. ワーカーは、E 男の状況確認を F 女が拒否することもあると予測して、あらかじめ所轄の警察署に援助を求め、警察官に同行してもらって訪問すべきである。
5. 民生委員は、まず、関係者による会議を開き、訪問の可否について検討すべきである。

(注)「高齢者虐待防止法」とは、「高齢者虐待の防止、高齢者の養護者に対する支援等に関する法律」のことである。

問題 89 入院の勧めを拒否する E 男と F 女の反応に対し、ワーカーや社会福祉士が採るべき対応に関する次の記述のうち、適切なものを一つ選びなさい。

1. 緊急性が高くないと認められるので、生活の状況等を把握することし、入院は強制しない。
2. 放置しておくとも生命や身体にかかわる危険性が高いと認められるので、直ちに入院・入所の措置を検討する。
3. F 女の行為は虐待に当たると説諭し、指導する。
4. E 男と F 女を分離させるために、F 女の精神科病院への措置入院を検討する。
5. 訪問介護の行われ方に問題があるので、事務所を変更することを助言する。

障害者福祉論

問題 90 ワーカーや社会福祉士が召集するケースカンファレンスに関する次の記述のうち、適切でないものを一つ選びなさい。

1. E 男, F 女にかかわっている民生委員, 訪問介護員, 介護支援専門員, 医師等に出席を求める。
2. 居宅サービス計画の見直しについて, 介護支援専門員を中心に検討する。
3. E 男の年金が F 女に搾取されている経済的虐待のおそれもあるので, 市町村長による成年後見制度申立てについても検討する。
4. 高齢者虐待防止ネットワークと連携し, 見守り体制の構築について検討する。
5. F 女の介護放棄が重なっているので, E 男の特別養護老人ホームへの措置入所の必要性を検討する。

問題 91 障害者自立支援における相談支援事業に関する次の記述のうち、正しいものを一つ選びなさい。

1. 事業所ごとに置かれる相談支援専門員は, 当該指定相談支援事業所の職務だけに従事しなければならない。
2. 指定相談支援事業者は, 指定相談支援事業所ごとに専らその職務に従事する管理者を置かなければならない。
3. サービス管理責任者は, サービス利用計画の作成のために, サービス利用計画の原案に位置づけた福祉サービス等の担当者を招集した会議を行う。
4. 相談支援専門員は, サービス利用計画の作成後のモニタリングに当たっては, 少なくとも三月に一回, 利用者の居宅を訪問しなければならない。
5. 相談支援専門員は, サービス利用計画の作成の際のアセスメントの実施に当たっては, 利用者の利便を考慮して電話による聞き取りで済ませることができる。

問題 92 障害者の雇用及び就労に関する次の記述のうち、正しいものを一つ選びなさい。

1. 地域障害者職業センターは, 障害者雇用支援センターの行う支援対象障害者に対する職業評価に基づき, 職業準備訓練, 就職後の助言や援助, 雇用主に対する雇用管理に関する助言や援助を行う。
2. 障害者就業・生活支援センターは, 支援対象障害者からの相談に応じ, 必要な指導及び助言を行うとともに, 公共職業安定所, 地域障害者職業センター, 障害者雇用支援センター, 社会福祉施設, 医療施設, 特別支援学校等との連絡調整等を行う。
3. 広域障害者職業センターは, 広範囲の地域にわたり, 障害者に対する職業評価, 職業指導, 職業準備訓練及び職業講習を行うとともに, 職場適応援助者の養成及び研修を行う。
4. 障害者自立支援法における就労継続支援事業は, 就労を希望する 65 歳未満の障害者であって通常の事業所に雇用されることが可能と見込まれる者に対して, 利用期限を定めて就労支援を行う。
5. 障害者自立支援法における就労継続支援B型は, 通常の事業所に雇用されることが困難であって, 雇用契約に基づく就労が可能と見込まれる者に対して, 雇用契約の締結等による就労

の機会の提供及び生産活動の機会の提供等の支援を行う。

問題 93 障害及び障害者の法的定義に関する次の記述のうち、誤っているものを一つ選びなさい。

1. 障害者の雇用の促進等に関する法律による障害者とは、「身体障害、知的障害又は精神障害があるため、長期にわたり、職業生活に相当の制限を受け、又は職業生活を営むことが著しく困難な者」をいう。
2. 障害者基本法による障害者とは、「身体障害、知的障害又は精神障害があるため、継続的に日常生活又は社会生活に相当な制限を受ける者」をいう。
3. 身体障害者福祉法による身体障害者とは、「別表に掲げる身体上の障害がある18歳以上の者であって、都道府県知事から身体障害者手帳の交付を受けたもの」をいう。
4. 精神保健及び精神障害者福祉に関する法律による精神障害者とは、「統合失調症、精神作用物質による急性中毒又はその依存症、知的障害、精神病質その他の精神疾患を有する者であって、都道府県知事から精神障害者保健福祉手帳の交付を受けた者」をいう。
5. 発達障害者支援法による発達障害とは、「自閉症、アスペルガー症候群その他の広汎性発達障害、学習障害、注意欠陥多動性障害その他これに類する脳機能の障害であってその症状が通常低年齢において発現するものとして政令で定めるもの」をいう。

問題 94 特別支援教育に関する次の記述のうち、正しいものを一つ選びなさい。

1. 盲学校・聾学校・養護学校において、一人一人の教育的ニーズに応じた特別支援教育を行う。
2. ほとんどの授業を通常の学級で受けながら、障害の状態等に応じた特別の指導の場（通級指導教室）で授業を受ける児童生徒数は、年々減少している。
3. 特別支援学級を設けることができるのは、従来の特殊学級と同様に、小学校、中学校である。
4. 1994年、スペインのサラマンカで開催された会議で、「特別ニーズ教育（Special Needs Education）」と「インテグレーション（Integration）」という新しい考え方が示された。
5. 文部科学省の調査（平成14年）によれば、小・中学校の通常の学級に在籍する、学習障害（LD）、注意欠陥多動性障害（ADHD）、高機能自閉症等、特別な教育的支援を必要とする児童生徒数は、全体の6%程度である。

問題 95 障害者運動及び民間活動に関する次の記述のうち、正しいものを一つ選びなさい。

1. IL 運動(自立生活運動)を象徴する CIL(自立生活センター)は、1990 年代初めにアメリカで障害をもつ学生の当事者運動から始まった。
2. 障害者インターナショナル(DPI)は、1981 年の国際障害者年を契機に設立され、身体障害にとどまらず知的障害や精神障害等様々な種類の障害のある人が活動する場となっている。
3. 国際リハビリテーション協会(RI)は、1920 年代に結成された世界物理医学会が母体となり発展した。
4. CBR とは、「地域に根ざしたリハビリテーション」のことで 1970 年代に北欧において開始され、現在では専門家が障害者宅に直接出向くアウトリーチ活動を行っている。
5. インクルージョン・インターナショナル(II)は、さまざまな障害をもつ子どもの統合教育を推進する国際団体で、国際連合が認める NGO(非政府組織)である。

問題 96 障害福祉計画に関する次の記述のうち、正しいものを一つ選びなさい。

1. 相談支援事業を効果的に実施するため、障害福祉サービス事業者、障害者支援施設、相談支援事業者からなる地域包括支援協議会を設ける等のネットワークの構築を図る。
2. 障害福祉サービスの提供体制の確保に当たっては、障害福祉計画の基本的理念を踏まえ、数値目標を設定し、計画的な整備を行う。
3. 市町村は障害福祉計画を作成する義務はないが、都道府県は作成する義務を負っている。
4. 障害福祉計画を定め、又は変更しようとするときは、あらかじめ、障害者団体、事業者、社会福祉協議会の意見を反映させるために必要な措置を講ずる必要がある。
5. 障害福祉計画は、地域福祉計画、医療計画その他の法律の規定による計画であって障害者等の福祉に関する事項を定めた計画と一体のものとして作成されなければならない。

問題 97 障害児・者の実態に関する次の記述のうち、正しいものを一つ選びなさい。

1. 「知的障害児(者)基礎調査」(平成 17 年)によると、平成 12 年の調査結果と比べ、在宅の知的障害者数は減少している。
2. 「知的障害児(者)実態調査」(平成 18 年)によると、平成 13 年の調査結果と比べ、最も増加率が高い身体障害者の障害の種類は、「内部障害」「肢体不自由」「聴覚・言語障害」「視覚障害」のうち「内部障害」である。
3. 平成 20 年版障害者白書によると、外来の精神障害者の精神疾患の中では「神経症性障害、ストレス関連障害及び身体表現性障害」が外来患者全体の半数を超えている。
4. 「身体障害児・者実態調査」(平成 18 年)によると、在宅の身体障害者の 50%以上が就業している。
5. 「知的障害児(者)基礎調査」(平成 17 年)によると、在宅の知的障害者が福祉行政に期待することは「経済的援助」が最も多く、次いで「障害者に対する周りの理解」となっている。

(障害者福祉論・事例問題)

地域生活への移行に向けた支援に関する次の事例を読んで、問題 98 から問題 100 までについて答えなさい。

【事 例】

人口 10 万人の市に住む J さん(38 歳)は、中度の知的障害があり、障害基礎年金 2 級の支給を受け、昼間は X 就労継続支援事業所(B 型)(以下、「X 事業所」という。)に通っている。X 事業所の工賃は平均すると月 9 千円ぐらいである。これまで、ずっと両親と一緒に市営のアパートで生活してきた。両親は、将来自分たちが亡くなった後、一人っ子の J さんがどのようなかずっと不安を抱き続けてきた。

X 事業所の母体の社会福祉法人が地域にケアホームを作ることになり、利用者を募集し始めた。J さんは、親元から離れ地域で自立した生活をしてみたいと考え、ケアホーム入居について、日ごろから相談に乗ってもらっている K 相談支援専門員に相談した(問題 98)。

数日後、K 相談支援専門員は、J さん、両親と面談を行った。その結果、以下の内容が分かった。両親は J さんの親亡き後を考え、将来は障害者支援施設を利用することを考えており、ケアホームでの生活には反対している。X 事業所のサービス管理責任者から「ケアホーム利用者の募集が始まって以来、J さんがとても意欲的に作業に取り組んでいる」と連絡があったが、母親から見ると浮ついた様子がうかがえ、経済的な問題や金銭管理を含めた身の回りの世話のことなど、一人ではやっていけないのではないかと、かえって心配でたまらない。一方で、J さんは、自分の訴えを理解してくれない両親に苛立っているようだった。K 相談支援専門員は、J さんと両親の意見が一致しない状況を考えて、現在の J さんを支援する方策を検討した(問題 99)。

K 相談支援専門員は、面談を重ねた結果、最終的に J さんの意向に沿い、ケアホームを利用する方向で両親の理解を得ることができた(問題 100)。

問題 98 K 相談支援専門員のこの時点での相談援助活動に関する次の記述のうち、最も適切なものを一つ選びなさい。

1. J さんの地域生活については、身の回りのことや金銭の管理ができるなど、その力がついてきてから始めるよう、助言する。
2. J さんは、地域生活を長年希望してきたのだから、地域での生活はできるだけ早く始めた方がよいと、助言する。
3. J さんの地域生活について、J さんや両親がどのように考えているかをよく聞きたい、と助言する。
4. 短期入所などを利用して、J さんの地域での生活を体験的に始めてみるよう、助言する。
5. J さんに、地域生活にはお金がかかるので、今から預金をするよう、助言する。

児童福祉論

問題 99 面接後、K 相談支援専門員が行う支援に関する次の記述のうち、適切なものに○、適切でないものに×をつけた場合、その組み合わせとして正しいものを一つ選びなさい。

- A. J さんと J さんの両親に、ケアホームの見学を提案する。
- B. J さんと J さんの両親に、ケアホームで提供される介護サービスの内容について情報提供する。
- C. 職場適応援助者によるジョブコーチ支援の活用を検討する。
- D. X 事業所に、J さんの工賃をさらに上げることができるか検討を依頼する。

(組み合わせ)

	A	B	C	D
1	○	○	×	○
2	○	×	○	×
3	○	×	×	○
4	×	○	○	×
5	×	○	×	○

問題 100 J さんの意向を確認した K 相談支援専門員が、すぐに行う具体的な援助活動に関する次の記述のうち、最も適切なものを一つ選びなさい。

- 1. 障害程度区分の認定手続を始める。
- 2. サービス利用計画作成費の申請を行う。
- 3. 成年後見制度の利用手続を開始する。
- 4. 行動援護の手続を行う。
- 5. 地域自立支援協議会に J さんの地域生活について困難事例として報告する。

問題 101 児童福祉分野の法律等に関する次の記述のうち、年代の古い順に並べたときに第 3 番目に位置するものとして、正しいものを一つ選びなさい。

- 1. 「児童手当法」が制定される。
- 2. 「児童扶養手当法」が制定される。
- 3. 「児童虐待の防止等に関する法律」が制定される。
- 4. 「次世代育成支援対策推進法」が制定される。
- 5. 「児童憲章」が制定される。

問題 102 児童福祉法に基づく里親制度に関する次の記述のうち、正しいものを一つ選びなさい。

- 1. 里親には、養育里親、親族里親、短期里親、専門里親の 4 種類がある。
- 2. 里親の認定は、児童相談所長が行う。
- 3. 専門里親は、虐待を受けた子どものみを養育する。
- 4. 養育里親は、児童と養子縁組することを目的として児童を養育する里親である。
- 5. 短期里親への委託期間は、1 か月を超えることはできない。

問題 103 認定こども園に関する次の記述のうち、正しいものを一つ選びなさい。

1. 認定こども園は、教育及び保育を一体的に提供する施設であり、子育て相談などの地域における子育て支援の実施は必要条件とはされていない。
2. 認定こども園は、保育に欠ける子ども、欠けない子どもも対象となる。
3. 認定こども園への入所は、市町村の長による措置として決定される。
4. 認定こども園は、市町村の長による認定を受ける。
5. 認可外保育施設は、国の定めた基準によれば、認定こども園としての認定を受けることはできない。

問題 104 次の施設のうち、児童福祉法第 27 条第 1 項第 3 号に基づく措置の対象となる施設として該当するものを一つ選びなさい。

1. 母子生活支援施設
2. 助産施設
3. 保育所
4. 児童養護施設
5. 児童家庭支援センター

問題 105 児童相談所に関する次の記述のうち、正しいものを一つ選びなさい。

1. 一時保護期間は原則として 1 か月を超えてはならない。
2. 児童相談所長は、親権を行う者及び未成年後見人のない児童等について未成年後見人を指名することができる。
3. 児童相談所長は、その管轄区域内の児童委員の中から主任児童委員を指名することができる。
4. 児童福祉司は、調査に当たって、担当区域内の市町村長に協力を求めることができる。
5. 児童相談所長は、親権喪失の宣告の請求を行うことができない。

問題 106 非行少年に関する次の記述のうち、正しいものを一つ選びなさい。

1. 14 歳に満たないで刑罰法令に触れる行為をした少年は、虞犯少年と呼ばれる。
2. 触法少年は、家庭裁判所の審判に付することを原則としている。
3. 家庭裁判所は、保護処分として児童自立支援施設又は児童養護施設に送致することができる。
4. 触法少年は、少年院に送致されることはない。
5. 少年法による「少年」は、児童福祉法における「少年」と同じ年齢とされている。

問題 107 人物と業績との関係に関する次の記述のうち、正しいものを一つ選びなさい。

1. 糸賀一雄は、石神井学園を創設し、主として身体障害児の領域で活躍した。
2. 野口幽香は、家庭学校を創設し、主として保育の領域で活躍した。
3. 石井十次は、福田会育児院を創設し、主として少年教護の領域で活躍した。
4. 留岡幸助は、近江学園を創設し、主として児童養護の領域で活躍した。
5. 石井亮一は、滝乃川学園を創設し、主として知的障害児の領域で活躍した。

(児童福祉論・事例問題)

虐待を行った保護者への援助に関する次の事例を読んで、問題 108 から問題 110 までについて答えなさい。

【事 例】

電話による虐待通告が Y 病院から児童相談所にあった。M 児童福祉司は同僚とともに Y 病院に駆けつけ、Z 市在住である L 子(当時 5 歳)の主治医や病院のソーシャルワーカーと面接した。その結果、(1)全身に打撲のあとと考えられる皮下出血が見られること、(2)母親は「階段から転落して打ちつけた」と釈明しているが、病院としては母親による虐待と考えていること、(3)L 子の両親は離婚し、母親が親権者として L 子を養育していること、(4)母親はうつ病のため病院に通院中であり、生活保護を受給していること、などが分かった。

この面接終了直後に開催された会議では、L 子を母親から分離する方針が確認された。M 児童福祉司が母親に電話し、「面接したい」と伝え、母親は「児童相談所は私を悪者扱いするのか」と敵意を露わにして電話を切った。しかし、まもなく児童相談所に来所した。母親は虐待を否定し、L 子の回復を待つ引き取るとの主張を繰り返した。M 児童福祉司は面接を切り上げ緊急の会議を開き、対応を協議した。その中で、母親の行為が虐待に当たることを告知するかどうかで議論が行われた(問題 108)。

その後、L 子は児童福祉法第 28 条の規定に基づいて、家庭裁判所の承認を得た上で児童養護施設に入所した。その 1 か月後には、母親のうつ病が悪化し病院へ入院することになった。入院した当初、母親は L 子に時々手紙を送ってきたが、3 か月ほどでそれも途絶えた。

L 子が施設に入所してほぼ 1 年が経過したころ、母親が児童相談所に来所し、「あと半年で、L 子は小学校に入学する。この時期に合わせて、L 子を引き取りたい。自分は病院を退院した。もう二度と虐待のようなことはしない」と申し出た。児童相談所は、この申出に対する対応について協議を行った(問題 109)。

その後、家庭環境調査が行われた結果、親族の支えで家庭復帰の方向が確認された。L 子が小学校に入学するまで残り 3 か月となった時期に、L 子の家庭復帰に関して協議する会議が開催された(問題 110)。

問題 108 このときに出された意見に関する次の記述のうち、最も適切なものを一つ選びなさい。

1. 母親の養育の仕方は虐待に当たることを告知することは避け、母親の気持ちに寄り添うことが大切である。
2. 母親の養育の仕方は虐待に当たることを告知することは、母親の自己決定の機会を奪うので、避けるべきである。
3. 母親の気持ちを理解しながらも、母親の養育の仕方は虐待に当たることを告知すべきである。
4. 母親との対立関係を避けるために、母親の養育の仕方は虐待に当たることを告知することはせず、「お母さんが楽になるまで、しばらく預かりましょう」と提案する。
5. この場合、法令に照らして、母親の気持ちについて考慮する必要はなく、母親の養育の仕方は虐待に当たることを毅然と告知すべきである。

問題 109 このときに出された意見に関する次の記述のうち、最も適切なものを一つ選びなさい。

1. L子は小学校入学の時期を迎えているので、万一、母親による虐待が再発したとしても自ら逃げ出す力を備えているので、引き取らせるべきではないか。
2. 「もう二度と虐待のようなことはしない」と反省しているので、母親の自己決定を尊重すべきではないか。
3. L子の気持ちをまず尊重すべきである。L子に会って気持ちを確かめ、その意見に従うべきではないか。
4. 母親は「退院した」と言っているが、主治医から病状などについて事実確認をする必要があるのではないか。
5. 「もう二度と虐待のようなことはしない」と反省しているが、誓約書を書かせた上で引き取らせるべきではないか。

問題 110 このときに出された意見に関する次の記述のうち、最も適切なものを一つ選びなさい。

1. プライバシーの保護が何よりも大切である。したがって、L子が家庭復帰することや最近の母子の様子などを入学する予定の小学校、福祉事務所に知らせるべきではない。
2. L子の状況については、入所していた児童養護施設の職員が詳しい。したがって、家庭復帰後の対応については、児童養護施設の職員がネットワークの中心となるべきである。このため、児童相談所は、可能な限り関与すべきではない。
3. 親子が平安に生活できるよう見守るのが我々の務めである。したがって、L子が家庭復帰したら、そっとしてあげるべきである。そのためには、母子に会うことはできる限り控えたほうがよい。
4. 家庭復帰後の状況を児童相談所が見守るには限界がある。家庭復帰と同時に措置を解除するとともに、福祉事務所に送致し、以後の対応は福祉事務所に任せるべきである。

社会福祉援助
技術論

5. L 子が入所していた施設の職員や L 子が通うことになる小学校の先生、母親が入院していた病院のソーシャルワーカーなどと会議を持ち、その後、親族を含め家庭復帰後の対応について話し合う必要がある。

問題 111 ケースワークの理論に関する次の記述のうち、正しいものを一つ選びなさい。

1. トール(Towle,C.)は、診断主義と機能主義を折衷し、問題解決アプローチを示した。
2. ホリス(Hollis,F.)は、「状況の中の人」という視点から、心理社会的アプローチを確立した。
3. ロビンソン(Robinson,V.)は、精神分析の考え方を基礎に、診断主義として知られる理論を提示した。
4. リード(Reid,W.)とエプスタイン(Epstein,L.)は、ランク(Rank,O.)の業績を基盤に、機能主義として知られる理論を提示した。
5. マイヤー(Meyer,C.)は、「行動の変化」を目標に実証的に展開される、行動療法アプローチを提示した。

問題 112 個人情報保護及び秘密保持の基本的な原則に関する次の記述のうち、最も適切なものを一つ選びなさい。

1. 利用者の家族から利用者についての情報を得る場合には、利用者本人から同意を得なくてもよい。
2. 社会福祉士が業務上知り得た秘密の保持は、その業務に従事している期間に限られる。
3. 研究目的で実施する事例研究の場合、匿名化してあれば、その関係者から同意を得なくてもよい。
4. 利用者や関係者から情報を得る場合には、業務上の必要な範囲にとどめる。
5. 第三者が利用者の情報の提供を求めてきた場合、援助に必要があれば、原則として、本人の同意なしに提供することができる。

問題 113 ソロモン(Solomon,B.)のエンパワメントアプローチによる実践に関する次の記述のうち、最も適切なものを一つ選びなさい。

1. クライアントが活用できる知識や技術をワーカーが保持していることを、クライアント自身が認識できるように支援する。
2. ワーカーとの援助関係は治療的關係であることを、クライアントが認識できるように支援する。
3. ワーカーが問題解決の主導者であることを、クライアントが認識できるように支援する。
4. ワーカーはクライアントにとっての保護者であることを、クライアントが認識できるように支援する。
5. 社会制度のもつ影響力をワーカーが解除させる働きをしていることを、クライアントが認識できるように支援する。

問題 114 グループワークの展開過程に関する次の記述のうち、適切なものを一つ選びなさい。

1. 準備期とは、実際にメンバーが顔を合わせ、グループとして活動を始める段階のことである。
2. 開始期とは、メンバーと予備的な接触を行い、そこで計画を立案する段階のことである。
3. 作業期とは、メンバーがワーカーの指示に従って目標達成に向けて課題に取り組んでいく段階のことである。
4. 治療期とは、ワーカーがメンバー個々の問題解決を図る段階のことである。
5. 終結期とは、メンバーと目標達成の程度や活動の評価を行い、全体的なまとめをする段階のことである。

問題 115 介護保険制度の居宅介護支援事業者が行うサービス担当者会議の目的に関する次の記述のうち、最も適切なものを一つ選びなさい。

1. サービス利用者と介護支援専門員の適合性について検討する。
2. 課題分析を中心に話し合う。
3. サービス事業所の役割に焦点を当てて話し合う。
4. サービス利用者の要介護の程度を検討する。
5. 居宅サービス計画作成のために、利用者の情報を共有し、専門的な見地から意見を求めて調整を図る。

問題 116 ソーシャルワークの機能に関する次の記述のうち、適切なものを一つ選びなさい。

1. ワーカーがクライアントの訴えを聴き、それを関係者に伝えてクライアントの権利を擁護する機能を「調停機能」という。
2. ワーカーがクライアントのニーズに対応するサービスやサポートを調整する機能を「教育機能」という。
3. ワーカーがクライアントのニーズと社会資源を結び付ける機能を「仲介機能」という。
4. ワーカーがクライアントとその家族との対立に介入し、その対立を解決する機能を「代弁機能」という。
5. ワーカーがクライアントに必要な情報を提供し、クライアントの対処能力を高める機能を「保護機能」という。

問題 117 相談面接に関する次の記述のうち、最も適切なものを一つ選びなさい。

1. 面接室における面接では、ワーカーが行う情報収集に役立つ範囲で時間や空間を設定することが求められる。
2. 訪問による面接では、訪問先の利用者の生活の場から問題理解の手掛かりを得ることができる。
3. 電話による面接では、相手の匿名性を利用して積極的に助言することが求められる。
4. 生活場面面接では、利用者の問題となった生活場면을再現することから始める。
5. インテーク面接では、利用者が抱える問題の原因を明らかにするための情報収集に専念する。

問題 118 ソーシャルワーカーの業務に関する次の記述のうち、適切なものを一つ選びなさい。

1. 就労支援にかかわるソーシャルワーカーは、就労移行支援が中心業務となる。
2. 更生保護にかかわるソーシャルワーカーは、刑務所からの出所者等を支援し福祉サービスにつなげることが期待されている。
3. ソーシャルワーカーが権利擁護にかかわる場合には、権利侵害を受けている人の成年後見人として選任されなければならない。
4. 医療にかかわるソーシャルワーカーは、医師の指示による診療補助が中心業務となる。
5. 学校にかかわるソーシャルワーカーは、学級運営へのアドバイスによって学級崩壊を防ぐことが中心業務となる。

問題 119 ピンカス(Pincus,A.)とミナハン(Minahan,A.)によるソーシャルワーク実践にかかわる理論に関する次の記述のうち、正しいものを一つ選びなさい。

1. 地縁関係で結ばれたクライアント個々の日常生活上の単位を、クライアント・システムという。
2. ソーシャルワーカーが所属する公私の機関もしくは組織体を、アクション・システムという。
3. ソーシャルワーカーが働き掛け、変化を引き起こす対象を、ターゲット・システムという。
4. ソーシャルワーカーとともに変革努力の目標を達成するために対応していく人材、資源、援助活動などを、チェンジ・エージェント・システムという。
5. 特定の課題解決に向けて活用されるソーシャルワーカーのワーカービリティを、リソース・システムという。

問題 120 ソーシャルワーク過程における終結に関する次の記述のうち、最も適切なものを一つ選びなさい。

1. 終結の時期は、援助の必要性和その充足度を評価してソーシャルワーカーが決定する。
2. 終結の際には、問題解決に至るまでのソーシャルワーカーの努力を肯定的に評価し、それをクライアントと共有する。
3. 終結の際には、残された問題の確認とその解決方法についての検討を行う。
4. 援助の終結は、クライアントがその社会福祉機関・施設を今後利用しないことを意味する。
5. 終結の焦点は、クライアントの主観的側面ではなく、問題解決の程度を客観的に評価することに向けられる。

問題 121 シングル・システム・デザイン(単一事例実験計画法)に関する次の記述のうち、正しいものを一つ選びなさい。

1. 効果がある程度証明された介入方法を検証し、知識を一般化するのに適している。
2. 情報収集が難しい場合にはベースライン(基礎線)の設定がなくても実施できる。
3. 独立変数以外は同じ条件であることが望ましいので、無作為割当が重要となる。
4. 「A-B デザイン」とは、A が介入後の前期、B が介入後の後期を示している。
5. 単一のクライアントの行動に変化があったかどうかを明らかにし、介入方法の検証に役立つ。

問題 122 「地域の組織化」に関する次の記述のうち、最も適切なものを一つ選びなさい。

1. 「福祉組織化」には、入所施設をなくして当事者の地域生活を住民が福祉的に支えていくという考え方が含まれる。
2. 「福祉組織化」には、サービス提供機関の組織化と、福祉課題を抱えた当事者を中心とする住民の組織化が含まれる。
3. 「地域組織化」の重要な方法であるインターグループワークは、積極的な地域住民による合同会議を意味している。
4. 「地域組織化」においては、地域課題に関心のある特定の住民を対象として組織化を図るという考え方が基軸となる。
5. 地域課題の深刻化と地域における人間関係の希薄化によって、同時並行で「福祉組織化」と「地域組織化」に取り組むことは効果的ではなくなっている。

(社会福祉援助技術・事例問題 1)

次の事例を読んで、問題 123 から問題 125 までについて答えなさい。

【事 例】

P さん(54 歳、女性)は、大企業の社員食堂の栄養士として働いてきた。健康診断で見つかった乳がんの治療で入院し、手術で片方の乳房を切除した。術後の後遺症で患部側の腕に浮腫が生じて腕の上げ下げが不自由になっており、日常生活に強い不安を感じている。

P さんは独身で一人暮らしである。今後の日常生活や職場復帰に支援が必要だと考えた主治医は、院内のソーシャルワーカー(27 歳、女性、以下「ワーカー」という。)に援助を依頼してきた。

ワーカーは、病棟に P さんを訪ねた。P さんは、ワーカーの自己紹介や医師からの依頼経緯についての説明に笑顔でうなずき、「今までだって何でも一人でやってきたのだから、これからも大丈夫です」と答えた(質問 123)。

ワーカーは、依頼された課題に関する話題を避けようとする P さんの気配を察して、当たり障りのない話から始めた。しばらくして、P さんが「ワーカーさんはいくつですか。相談したいことがないわけじゃないけど、あなたにそれを話すのがいいのかどうか…」と言って目をそらした(問題 124)。

その後、ワーカーが数回目に病室を訪ねた際、P さんは自分の身の上について話し始めた。それによると、P さんは一人っ子で、幼少時に相次いで両親を病気で亡くしたため、叔父夫婦に引き取られ、専門学校まで出してもらった。そして、卒業すると今の勤め先に就職し、それ以来ずっと一人暮らしでやってきたという。人一倍勉強し、働く人の健康には昼ご飯一食でも大切だと思って、妥協せずにおいしく栄養のバランスのいいメニューを考え続けてきたという。P さんは、「私は誇れる仕事をしてきたつもり。定年まで頑張りたいの。でも、今までのようにはいできないのだから辞めるしかないわよね」と涙ぐんだ(問題 125)。

問題 123 この時点におけるワーカーの応答に関する次の記述のうち、最も適切なものを一つ選びなさい。

1. 健康には自信がおりだったのですね。
2. ずっとさみしかったのですね。
3. お一人で頑張ってこられたのですね。
4. 最初は皆さん、大丈夫だとおっしゃいます。
5. 大丈夫とおっしゃる根拠は何でしょう。

問題 124 この場面におけるワーカーの応答に関する次の記述のうち、最も適切なものを一つ選びなさい。

1. 私では無理だとおっしゃりたいのですね。
2. 心配いりませんよ。きっと大丈夫です。
3. ワーカーとしての能力は年齢には関係ないものです。
4. お話されることに躊躇がおりなんですね。
5. 私は専門家なのでからお任せください。

問題 125 この場面におけるワーカーの対応に関する次の記述のうち、最も適切なものを一つ選びなさい。

1. Pさんの「辞めるしかないわよね」という発言に賛意を示す。
2. Pさんが涙ぐんだので話題を変える。
3. Pさんができそうな別の仕事を紹介する。
4. Pさんの肯定的な感情と否定的な感情の両方に着目する。
5. Pさんのこれまでの仕事内容について、さらに掘り下げて聞く。

(社会福祉援助技術・事例問題 2)

次の事例を読んで、問題 126 から問題 128 までについて答えなさい。

【事 例】

地域包括支援センターの社会福祉士(以下、「ワーカー」という。)は、民生委員から、近くに住む高齢者(以下、「Qさん」という。)のことで相談を受けた。Qさんは一人暮らしの女性で、認知症が疑われる言動が見られるようになり、最近 Qさん宅で軽いボヤ騒ぎがあったとのことであった。数日後、ワーカーは、Qさん宅に民生委員と同行訪問した(問題 126)。

訪問時に得られた情報及び Qさんから承諾をとった上で周囲の関係者から得た情報を総合すると、次のようなことが分かった。Qさんは 73 歳で、約 20 年前に夫を亡くし、それ以来今のアパートで暮らしてきた。歳の離れた妹が隣県におり、年に数回の行き来がある。年金とこれまでの預貯金を生活費にあてている。社交的な性格もあって人付き合いは広い。地域の福祉活動にも積極的に参加し、特に地元での喫茶ボランティアの活動では長く中心的なメンバーであった。この活動は今でも続けている。自立した日常生活は維持できているものの、約半年前から、アパート住人や家主、ボランティア仲間等から、Qさんの生活ぶりが気になるという声が民生委員に

寄せられるようになった。具体的には、期日までに家賃を納めないことがある、決められた日にゴミが出せない、同じ内容の電話をかけてくる、近くのコンビニで同じ日に同じ物を買いに来るといったことである。また、喫茶ボランティアの活動では、時間に遅れて来ることがあったり、表情もさえないことが多いということであった(問題 127)。

ワーカーは、Qさんを地域で支えていくための意図的な働き掛けが必要と感じ、Qさんと確認した上で、普段からQさんとかかわりのあるアパートの住人、家主、喫茶ボランティアの仲間等と個別に話をする機会をつくった。その際、日ごろQさんへの気遣いや支援に関して謝意を伝え、民生委員とともに地域包括支援センターとしてもいつでも支援が可能であることを伝えた(問題 128)。

問題 126 同行訪問時のワーカーの働き掛けに関する次の記述のうち、最も適切なものを一つ選びなさい。

1. 日常生活自立支援事業の利用を勧める。
2. 地域の人たちがとても困っているということを伝える。
3. Qさんに認知症の疑いがあることを伝える。
4. まず、なぜこうして訪問することになったのかについて説明する。
5. 今後は、民生委員がQさんの生活状態を把握し、介入していくことの理解を求める。

問題 127 この時点での当面の対応に関する次の記述のうち、最も適切なものを一つ選びなさい。

1. コンビニの店員にQさんの状況を伝え、買い過ぎの場合には注意してもらう。
2. 医療機関につなぎ、早急に認知症の検査を受けられるようにする。
3. グループホームに入居するための手続を取る。
4. 喫茶ボランティアの活動を自粛するようにQさんに伝える。
5. Qさん自身が今の状況についてどのように認識しているのかを把握する。

問題 128 この時点でワーカーが意図すべきことに関する次の記述のうち、適切でないものを一つ選びなさい。

1. ワーカーが専門的にサポートする姿勢を見せる。
2. Qさんの変化を早期に把握できるようにする。
3. 近隣住民に自分たちの地域について考えてもらう。
4. Qさんの地域での生活が既に限界にきていることを、関係者に気付いてもらう。
5. 近隣住民による支援ネットワークづくりを推進する。

(社会福祉援助技術・事例問題 3)

次の事例を読んで、問題 129 から問題 131 までについて答えなさい。

【事 例】

R さん(入所時 23 歳)は軽度の知的障害がある女性である。S 子(入所時 3 歳)と母子生活支援施設に入所している。R さんは掃除や洗濯はある程度できるが、料理が苦手で、また買い物や金銭の管理は困難である。入所前は、料理や買い物は夫が担っていた。また、R さんには育児が難しく、S 子の世話は主に夫が行っていた。夫はギャンブルで多額の借金を作り、その後失踪した。借金の一部は、R さん名義になっていた。日常生活にも困り、家賃を滞納し、家の退去を余儀なくされた R さんは、福祉事務所に相談に行き、緊急一時保護を経て母子生活支援施設に入所した。入所時、R さんは大変不安そうで、言葉少なだった。母子指導員(以下、「ワーカー」という。)は、入所面接において、R さんと共に当面の課題について整理した(問題 129)。

入所時の課題は、支援の中で少しずつ解決されていった。生活保護を受給し、母子は徐々に落ち着いて生活できるようになった。ワーカーは母子の安定した生活を目標に支援し、入所後 3 か月が経過した時点で自立支援計画を立てた(問題 130)。

自立支援計画に沿って母子への支援が展開され、1 年後、自立支援計画の再策定の時期に、夫と連絡が取れ離婚が成立した。S 子は発育の遅れも見られず、元気に保育所に通うようになった。支援の効果が見られ、R さん母子の生活は安定するようになった。

入所から 2 年が過ぎたころ、R さんは「仕事がしたい」と話すようになった。R さんには養護学校高等部(当時)卒業後、電気部品組立工場での就労経験があった。そこで、ワーカーは近くの工場での就労に向けた支援を行い、パートタイマーとして就職することができた。この間、家事と育児にも懸命に取り組み、入所後約 3 年たったころには地域での生活が現実的なものになってきた。ワーカーは、S 子の小学校入学の時期をめどに退所に向けた支援を行うことにした(問題 131)。

問題 129 この場面での当面の課題に関する次の記述のうち、最も適切なものを一つ選びなさい。

1. 生活の急変に伴う R さんの不安を解消すること。
2. 借金の返済を開始できるようにすること。
3. 夫を探し、再び共に住めるようにすること。
4. R さんがこのような問題を抱えてしまった経緯と理由について解説し、どのようにすればよかったか分かってもらうようにすること。
5. R さんの問題解決能力を高める治療的なプログラムへの参加を勧めること。

問題 130 この場面での自立支援計画に反映させる内容に関する次の記述のうち、最も適切なものを一つ選びなさい。

1. Rさんのストレスにならないように他の利用者とのかかわりを制限する。
2. Rさんの代わりに施設の保育士がS子の養育を行う。
3. 使ったお金についてワーカーがサポートしながらRさんに金銭出納帳をつけてもらい、金銭の管理について話し合う。
4. 地域で開催している料理教室のリストを渡し、料理教室へ通うよう指示する。
5. 民生委員に指示して、サポートネットワークを形成する。

問題 131 退所に向けた支援に関する次の記述のうち、適切でないものを一つ選びなさい。

1. 日常生活自立支援事業の利用を検討する。
2. Rさん、ワーカー、地域の関係機関の担当者によるカンファレンスを開き、退所後の生活について話し合う。
3. 通勤やS子の通学、生活環境等を踏まえ、入居可能な住宅を確保する。
4. 退所後も施設では、相談その他の援助を行うことができることをRさんに伝える。
5. Rさん母子の生活に備え、近所の人にRさん母子の生い立ちや施設入所のいきさつなどを説明する。

(社会福祉援助技術・事例問題 4)

次の事例を読んで、問題 132 から問題 134 までについて答えなさい。

【事 例】

児童養護施設の家庭支援専門相談員(以下、「ワーカー」という。)は、T君(12歳)の父親(40歳)のもとへの年末年始の帰宅を前に、父子に対する支援について検討していた。

父親はアルコール依存症で仕事に就けず、生活保護を受給しながら生活している。

母親は、T君が4歳のときに家出しており、それ以来音信が途絶えている。父親は下肢に障害があり、家事等が困難である。そのため、養育困難を理由に、T君は5歳の時に施設に入所した。父親は、時折酒を飲んで大声を出したりすることもあり、近隣から疎んじられている。また、父親は、自らの親とも折り合いが悪く、関係を絶っている状態である。その結果、父親は周囲から孤立感を感じているようである。

施設生活において、T君は、同年代の子どもと遊んだり、職員ともよく話をしていた。これまでは帰宅の際に特に嫌がるようなことは見られなかった。しかし、今回の帰宅の話が出始めたころから職員と話をするのを避けるようになり、一人でいる場面が多くなった。

気になったワーカーが、「最近、元気がないけど、どうしたの」とT君に尋ねると、「別に何もない・・・」とぶっきらぼうに答えた(問題 132)。

翌日、父親からT君に電話がかかってきた際、ワーカーが促してもT君は電話に出たくないと最後まで言い張った。その後に、ワーカーが声をかけると、T君は「最近、あいつ(父親)、うっとうしいんだよ」と言った。さらに、その言葉をうけたワーカーとのやりとりの中で、「なんで俺はここに

いなきゃいけないんだよ」と強い口調で訴えた(問題 133)。

これまでの状況を踏まえ、ワーカーは、T 君と父親への今後の援助計画の立案を行った(問題 134)。

問題 132 この場面におけるワーカーの応答に関する次の記述のうち、最も適切なものを一つ選びなさい。

1. そういう態度はないな。
2. 今は話したくないんだね。
3. 家に帰ることを気にするな。
4. くよくよするな。
5. 今までそんなことなかったじゃない。

問題 133 この時点におけるワーカーの対応に関する次の記述のうち、最も適切なものを一つ選びなさい。

1. T 君の気持ちに寄り添い、感情表出を促す。
2. T 君に父親の置かれている状況を説明し、内省を促す。
3. 父親に連絡を取り、T 君の言葉をそのまま伝える。
4. 施設にいる理由が分かっていないようなので、このまま施設で生活するよう T 君に言い聞かせる。
5. 職員会議での事例検討会にて、T 君が施設の扱いに不満があり退所したがっていると報告する。

問題 134 今後の父子への援助計画の内容に関する次の記述のうち、適切なものに○、適切でないものに×をつけた場合、その組み合わせとして正しいものを一つ選びなさい。

- A. T 君の情緒的な安定を図るための面接を行う。
- B. 父親の孤立感に共感し、支援関係の構築を図る。
- C. 父子関係の再構築に向けた支援を図る。
- D. 家庭引き取りに向けた話し合いを始める。

(組み合わせ)

	A	B	C	D
1	○	○	○	×
2	○	○	×	○
3	○	×	○	×
4	×	○	○	×
5	×	×	×	○

(社会福祉援助技術・事例問題 5)

次の事例を読んで、問題 135 から問題 137 までについて答えなさい。

【事 例】

U さん(50 歳, 男性)は交通事故による脳挫傷後遺症で重度の片麻痺がある。U さんの目標は職場復帰であった。娘や息子の協力を得て、自宅でリハビリテーションに努めてきたが、職場の受入れは難航し退職となった。在宅生活は 1 年を経過したが、家での飲酒の機会が増え、ふさぎ込むことが多くなった。

家族は何とか U さんに立ち直ってほしいと思っていた。夫の状態を見て不安になった U さんの妻は、地域の相談支援事業所の相談支援専門員(以下、「ワーカー」という。)を訪ね、そのことを相談した(問題 135)。

後日、ワーカーは U さん宅を訪問した。訪問当初、ワーカーの声かけに反応が少なかった U さんだが、何度かの面接を経て、妻と外出する機会も徐々に増えていった。ある日、妻はワーカーに U さんが通えるような場所がないかと相談した。そこでワーカーは、地域にある障害者のサポートグループが運営する喫茶サロンを紹介した。ワーカーが一度見学に行くことを勧めたところ、本人は渋々同意した。そこでワーカーは、U さん夫婦と一緒に見学することにした。

喫茶サロンの見学中、そこに通っているメンバーから「結構楽しいところだよ。あんたも来てみないか」と声をかけられた。それに対してうなずいた U さんだったが、帰り道ではため息をつきながら、「気が進まないんだよな・・・」と暗い表情をしていた(問題 136)。

数日後の午前中、ワーカーが U さんの自宅を再度訪問したところ、U さんはまだ布団の中にいた。ワーカーが喫茶サロンの感想を尋ねると、布団の中から「そうだなあ・・・。グチグチ言ってきたけど、俺も頑張らないとなあ」と小さな声で答えた。これに対してワーカーが、「これからのこと、ゆっくり考えていきましょう」と言うと、U さんは軽くうなずいた。訪問時の最後に、次回は相談支援事業所で会う約束をした(問題 137)。

問題 135 この時点でのワーカーの対応に関する次の記述のうち、適切でないものを一つ選びなさい。

1. 来談者である妻の不安にまず焦点を当てる。
2. 家族診断をして病理性を伝える。
3. U さんと家族の抱える課題の緊急度を把握する。
4. 妻が安心して相談できる面接環境や雰囲気を作る。
5. 話される内容などについての秘密を守ることをしっかり伝える。

問題 136 この時点におけるワーカーの対応に関する次の記述のうち、最も適切なものを一つ選びなさい。

1. サロンに行くことがUさんのためになることを説明し、参加を促す。
2. Uさんの気持ちを理解し、共感を示す。
3. 妻がどれほど心配しているのかを代弁し、頑張るように励ます。
4. 話題を変えて、心地よい雰囲気作りをする。
5. サロンのメンバーたちに、Uさんの参加を促すための強い働き掛けを要請する。

問題 137 次回の面接におけるワーカーの対応に関する次の記述のうち、最も適切なものを一つ選びなさい。

1. 障害受容の過程に即した心理的サポートを行う。
2. Uさんの問題の原因は家族の側にあることを理解できるように促す。
3. 妻と支援計画を立て、Uさんがそれを実行するように促す。
4. 「頑張らないとなあ」という言葉に着目し、就労支援機関につなげる。
5. 相談支援事業所の説明とともに、Uさんにピア・カウンセリングのプログラムに参加する手続きが済んでいることを伝える。

(社会福祉援助技術・事例問題 6)

次の事例を読んで、問題 138 から問題 140 までについて答えなさい。

【事 例】

病院に勤める男性の新人ソーシャルワーカー(以下、「ワーカー」という。)は、上司(以下、「スーパーバイザー」という。)から交通事故で入院しているVさん(26歳、男性)のケースでスーパービジョンを受けることになった。Vさんは、大きなバイク事故により、救急車でこの病院に搬送されてきた。足に障害が残る見込みであることが医師からVさんに伝えられている。

スーパービジョンの場面で、これまでの援助過程について説明を受けたスーパーバイザーは、ワーカーに一番気になっていることを尋ねた。すると、ワーカーは、当初、同年代であるVさんが病室での居心地の悪さや治療後の生活のことまであらゆる相談をしてくるたびに、細かく対応してきたこと、さらに、こうした対応によってVさんといふ援助関係を築くことできたと思っていたと話した。けれども医師が、リハビリテーション病院への転院を勧めると、Vさんは人が変わったように、「自分はまだ治っていない」と転院を強く拒否した。また、「手術は本当に成功したのか」と病院や医師への不満を言い、ワーカーに対しても不信感を露わにし始めた。ワーカーは、以上のことを一気に話した(問題 138)。

更に続けて、ワーカーは、「最近もVさんと面接しようと病室を訪ねたのですが、『あなたとはもう話したくない』と拒否されてしまいました。何とかしなければと思っているのですが、どうすればよいのか・・・」と小さな声で話した(問題 139)。

その後、しばらくやりとりした後、スーパーバイザーは、「Vさんがあなたによく相談したり、その一方で不信感を露わにしたりするのは、年齢の近いあなたに対してもっと自分のことを理解して

欲しいと思っていたからかもしれませんね。このVさんの思いについてもう少し深く考察する必要がありそうですね。また、今回の転院をめぐる過程は、Vさん自身がこれからの生活を考える上でとても意味がありそうですね。この点を踏まえながら、今後のかかわり方を考えてみてはどうでしょう」と投げかけた(問題 140)。

問題 138 この場面でのスーパーバイザーの発言に関する次の記述のうち、最も適切なものを一つ選びなさい。

1. Vさんはあなたに不信感を持っているようなので、他のワーカーと代わった方がいいでしょう。
2. 転院はVさんだけの問題ではないので、家族から説得してもらうようお願いしてみたらどうでしょう。
3. 今まで一生懸命にVさんにかかわってきただけに、今回のことにショックだったでしょう。
4. Vさんの言動が変化した背景には、病院側の対応に問題があったのではないかと考えてみましょう。
5. あなたがVさんの言動に振り回され、望みどおりに何でも対応してきたことが原因でしょう。

問題 139 この場面でのスーパーバイザーの対応に関する次の記述のうち、最も適切なものを一つ選びなさい。

1. 本人の意向を尊重して、しばらく時間をおきましょう。
2. まだ経験が浅いので仕方ないですね。
3. 心配しなくてもきっと面接することはできますよ。
4. どうしたらよいか行き詰まっているのですね。
5. 専門職なのだから迷っている場合ではないはずです。

問題 140 この場面でのスーパービジョンの内容に関する次の記述のうち、最も適切なものを一つ選びなさい。

1. 年齢が近いクライアントを支援するには、まだ未熟であることをワーカーに理解させようとしている。
2. 転院について再調整することの必要性を理解させようとしている。
3. Vさんが同年代のワーカーに向けた態度を通して、事故や障害をめぐるVさんの内面で生起している感情をワーカーに理解させようとしている。
4. Vさんが病院や医師への不満を口にしたときに、ワーカーがもっとうまく対処すべきだったことを理解させようとしている。
5. ワーカーも人間である以上、様々な感情を抱くものなので、Vさんに対して率直にワーカー自身の感情をぶつけた方がよいことを理解させようとしている。

介護概論

問題 141 認知症に関する次の記述のうち、適切なものを一つ選びなさい。

1. 認知症の記憶障害は、古い記憶から失われていく。
2. 体験したことの一部を忘れるのが、認知症の記憶障害である。
3. 理由や目的が無く歩き回することを徘徊という。
4. 実行機能障害とは、物事の手順を踏んだ作業が困難になることをいう。
5. 中核症状は、環境要因が誘因となって起きる。

問題 142 介護実践に関する次の記述のうち、適切なものを一つ選びなさい。

1. 不眠を訴えるので、30℃以下の湯でゆっくり足浴を行った。
2. 仙骨部の発赤が消失しないので、マッサージをした。
3. 震えながら寒気を訴えるので、保温して安静にし、看護師に報告した。
4. 転倒後、膝関節部に腫れと痛みがあったので、温湿布をした。
5. 活動後に多量の発汗が見られたので、清拭、衣服の交換を行い、水分の補給は控えた。

問題 143 介護の原則に関する次の記述のうち、最も適切なものを一つ選びなさい。

1. 施設で生活する高齢者には、今までの生活習慣やこだわりを制限する。
2. 近隣や家族との関係を保つことは、認知症の人を混乱させる。
3. 医療内ニーズや権利擁護など利用者の複雑で多様なニーズを満たすために、介護福祉士間で連携して支援する。
4. 生活全般を視野に入れて支援するが、健康管理は医療職にまかせる。
5. 利用者の生命や生活に及ぼすリスクを検討し、安全な環境を確保する。

問題 144 介護保険施設において介護福祉士が独自の判断で行うことができるケアに関する次の記述のうち、適切なものを一つ選びなさい。

1. 利用者の意思や人格を尊重しながら個別ケアを行う。
2. 業務として利用者の痰を吸引する。
3. 利用者の家族の同意があれば身体拘束ができる。
4. 重度の歯周病者のブラッシングや口腔(くう)ケアを行う。
5. 心身の活性化のためレクリエーションは全員参加活動とする。

問題 145 終末期に関する次の記述のうち、適切なものを一つ選びなさい。

1. 自宅で死にたいという本人の願いどおり、在宅死が多い。
2. 安楽に過ごせる体位を工夫し、痛みや倦怠感の緩和に努める。
3. 末期になると身体的変化として、呼吸が減少し体温が上昇する。
4. 死の恐怖や不安を訴えたときは、すぐに話題を変える。
5. 状態が急変した場合は、家族に連絡した後、医師や看護師に連絡する。

問題 146 排泄介助に関する次の記述のうち、最も適切なものを一つ選びなさい。

1. 高齢者の排泄介助は、介護業務のスケジュールに合わせて時間を決め、定期的実施する。
2. 頸髄椎損傷者の排尿では、自然排尿を促すように介助する。
3. 重症心身障害児の排泄介助は、習慣化させることを念頭に行う。
4. 高齢者で失禁が見られたら、すぐにおむつを使用する。
5. 外出前的高齢者には、水分摂取を控えさせる。

問題 147 高齢者の自立支援に関する次の記述のうち、適切なものを一つ選びなさい。

1. 生活活動を拡大させると、精神面には影響ないが身体機能は向上する。
2. 福祉用具の主たる目的は、介護者の負担を軽減することである。
3. 転倒の危険性がある高齢者には、早期に車いすの利用を勧める。
4. 足腰の筋力が低下しつつある高齢者には、座って行うレクリエーションを提供する。
5. 室内に閉じこもりがちな高齢者には、外部との交流を高めるよう支援する。

問題 148 てんかん発作を起こした場合の対応に関する次の記述のうち、最も適切なものを一つ選びなさい。

1. 仰臥位にし、あごを押さえて舌を噛まないようにする。
2. 口腔内に食塊や異物がないかを確認する。
3. 名前を呼びかけ肩を揺すって、意識の覚醒を促す。
4. 身体が痙攣していれば、その部位を押さえて痙攣を止める。
5. すぐに抗てんかん薬を飲ませる。

問題 149 高齢者とのコミュニケーションに関する次の記述のうち、最も適切なものを一つ選びなさい。

1. 誤った内容や言葉の一部を反復しながら聞く。
2. 話を言葉どおりに受け取ると、相手の真の気持ちが分かる。
3. 言葉に詰まったときは、すぐに援助者が話を継続する。
4. 聞き手が反応せず黙っていると、高齢者は話しやすい。
5. 話した内容に関連した質問をすると、高齢者に不安感を与える。

問題 150 介護記録に関する次の記述のうち、適切なものを一つ選びなさい。

1. 介護記録は、病状の変化を中心にする。
2. 家族の要望や意見は、介護従事者で協議し、合意したものを書く。
3. 援助の裏付けや根拠について、誰にでも分かるように書く。
4. 利用者や家族に心配させないように、専門用語で書く。
5. 介護従事者の主観や介入については、記録しないようにする。